

古代史散策

No. 73

古市古墳群 ①

パナソニック電工松寿会
古代史散策部

平成10年4月 作成
平成27年6月改訂・復刻

〈コース〉 5 km

磯藤井寺 — 葛井寺 — 辛国神社 — アイセル・シュ
ラホール — ¹⁴仲哀天皇陵 — 野中寺 —
²⁴仁賢天皇陵 — 峯ヶ塚古墳 — ²²清寧天皇陵 —
日本武尊白鳥陵 — 古市大溝 — 磯古市駅…解散

〈総説〉

大阪で最も早く文化が開けたこの辺りは、西文氏・船
氏・津氏・倉毘登・馬毘登など、卓越した朝鮮半島、大
陸系渡来人の第二の故郷として発展し、わが国古代文化
の発祥地として全国にその名を知られている。

5～6世紀に亘る約100基を数える古墳造成の大土木
工事を支えたのもこれら渡来人の技術と思われる。

飛鳥時代には、大和王朝と難波を結ぶわが国最初の官
道竹内街道の周辺地帯として、大陸系先進文化の導入路
として大きな役割を果たしたのである。

【古市古墳群】

羽曳野市の北西部から藤井寺市一帯に亘る、南北約4
km、東西約3 kmの地域に分布する、天皇陵を中核にした
一大古墳群をいう。

群中には、全国第2位の規模を誇る416mの前方後円
墳の菅田山古墳（応神陵）をはじめ、岡ミサンザイ古墳
（仲哀陵 242m）・市ノ山古墳（允恭陵 228m）・
仲津山古墳（中津姫陵・283m）など、いわゆる巨大古
墳を含む、前方後円墳19基、前方後方墳1基、方墳11基
以上、円墳25基以上で構成されている。

津堂城山古墳（200m）・市ノ山古墳・仲津山古墳・
菅田山古墳など大型前方後円墳が北方グループに多く、

南方グループには、西浦白髪山古墳（清寧陵 115m）ボケ山古墳（仁賢陵 120m）など、近畿地方としては中型規模の古墳が主体となっている。19基の前方後円墳の中で、墳丘全長200m以上の巨大古墳が6基も含まれており、築造年代もほぼ5世紀代に集中し、古墳全体としては6世紀代にまで及んだものと推定されている。

現在、堺市の百舌古墳群と共に、世界文化遺産への登録を目指して活動している。

（ 各 説 ）

【葛井寺】

藤井寺市藤井寺1丁目

千手観音座像を本尊とする真言宗の寺で正しくは紫雲山剛琳寺と云い、西国33観音霊場第5番の寺である。

百済系王氏一族の一派、葛井連一族が⁴⁵聖武天皇の神亀2年(725)に創建した氏寺で、北東約300mにある辛国神社の神宮寺であった可能性が強い。

本尊千手観音（国宝）は、天平後期の春日仏師作の脱乾湿座像で、大の手2本のほかに、光背を構成した中の手40本、小の手1,000本で、合計1,042本とわが国の仏像では最多数を誇る。

創建当初は、もっと南の野中に近い所にあったが、南北朝や戦国の兵火で焼失し、現寺域はもとの奥の院の跡に再建されたものである。

主な建物は、江戸初期の豊臣秀頼寄進の朱塗りの四脚



葛井寺四脚門（西門）

門（西門）、入母屋造本瓦葺の享保の本堂、寛政の重層南大門（いずれも重文）や鐘楼および護摩堂、納札堂がある。

本堂背後には、花山法王ゆかりの紫雲灯籠（重要美術品）がある。

【辛国神社】
藤井寺市藤井寺1丁目
饒速日命・天兒屋根命・素盞鳴命を祭神とする古社で

約1,500年前の雄略天皇の御代、この地を治めることに



辛国神社拝殿

という。

社名の由来は諸説あるが、物部氏の没後、一族の辛国連が当社に深く関わるようになり、辛国神社と称するようになったと伝えられている。

【アイセル・シュラホール】

藤井寺市藤井寺3丁目

この施設は「藤井寺市立生涯学習センター」として、新池の一部を埋め立てて平成6年7月にオープンした。

建物の外観は、市内から出土した「修羅」と古代船の埴輪の姿をモチーフとしており、遠くから見ると、まるで船が街の上に浮かんでいるように見える独特なデザイン

ンをしている。

建物は4階建てで、1階は市住民課・高齢者憩いの場及び展示コーナーになっており、2階の歴史展示ゾーンは、市内の遺跡から発見された旧石器時代から奈良時代までの、道具や埴輪などの出土品を展示し、図書館施設もある。3階には、公民館・視聴覚教室などがあり、生涯学習に貢献している。電動開閉式ドームをもつ4階は、ゲートボールなど軽スポーツに利用されている。



アイセル・シュラホール

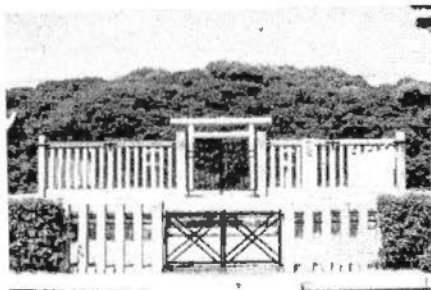
【¹⁴仲哀天皇 惠我長野西陵：岡ミサンザイ古墳】

藤井寺市藤井寺4丁目

幅50～80mの周濠をめぐらし、全長242m、前方部幅183m、後円部径148mの5世紀後半築造の巨大前方後円墳である。

仲哀天皇陵に比定されているが、天皇自身の存在が疑問視されている上に、築造時代が合わず、5世紀後半の²¹雄略陵とする説もある。

平成8年11月、宮内庁が発掘現場を公開し、出土した埴輪片などから5世



仲哀天皇陵

紀末築造説が裏付けられた。またそれまでの竪穴式から横穴式石室を採用した最初の大王（天皇）の可能性が高まった。

ミサンザイは陸の軼訛と云われる。

【^{野中寺}野中寺：中の太子】 羽曳野市野々上5丁目

寺伝によれば、聖徳太子の時代に創建され、太子町叡福寺の「上の太子」、八尾市 大聖將軍寺の「下の太子」と並んで「中の太子」と称されている。

野々上から野中にかけての一带は、百済系の王氏一族の船史の本願地で、太子の仏教興隆政策に協力した船氏の祖、王辰爾や那沛子等により氏寺として創建されたものと云われている。

船氏は、辰爾→那沛子我→王後（王平）と続き、蘇馬子の腹心として勢力を増した。

太子薨去後、法隆寺式の七堂伽藍が完成し、河内に於ける仏教の根本道場として栄えたが、主要伽藍は南北朝時代の戦火にあい焼失したと思われる。

現在寺の旧主要伽藍部分は国の史跡に、また、寺に伝わる弥勒菩薩半跏思惟像（重文）には『丙寅4年(666)』



野中寺三重塔礎石

の台座銘があり、寺の創建を知る手掛かりとされている。

正面入口付近より約50m南が南大門跡で、現在の入口付近が中門跡に相当し、正面本堂は旧講堂跡に建っている。山門

右には金堂跡があり、ホソ穴のある礎石が整然と残り、また左側に三重塔跡の礎石が13個残存し、中央の塔心礎は円形の心柱孔に半円形の支柱孔3つを有する形式で、側面に舍利孔が設けられており、大和飛鳥の橋寺の塔礎と類似している。

なお、本堂左側には、ヒチンジヨ池西古墳出土の組合せ式箱型石棺があるが、横口式石槨の形式であり、高松塚古墳の石槨と似ており、7世紀前半頃の王氏一族の墳墓と考えられている。

【²⁴仁賢天皇 埴生坂本陵：野中ボケ山古墳】

藤井寺市青山3丁目

最広部29mの周濠を巡らせた、前方部が後円部に比べて甚だしく張り出した6世紀の典型的な前方後円墳である。墳丘全長122m、前方部幅105m、後円部径65m、前方部高さ13m。

発掘調査や盗掘の記録がなく、埋葬施設や副葬品についての確実な情報はないが、造りから推定すると横穴式

石室の可能性がある。

また南約400mの峯ヶ塚古墳が仁賢陵だと云う説もあるが、延喜式に『河内国丹比郡にあり、兆域は東西2町、南北2町、守戸5畑……』とあり、場所・年代・規模などから見ても概ね合致するとされている。



仁賢天皇陵墳丘図

【^{みねが}峯ヶ塚古墳】

羽曳野市軽里2丁目

平成4年3月、発掘調査の結果がマスコミにより『大王陵級の古墳。掘り当てた宝の山、副葬品2千点……』と、連日に亘り大々的に報道された。

全長96m、前方部幅56m、後円部径36mの西面する前方後円墳である。はじめは周濠があったが、江戸中期の新田開発で北側は埋められて水田と化し、西と南は残されて地元の灌漑用水池として今も活用されている。

古市古墳群を構成する前方後円墳としては終末期に属し、^{せんどう}羨道の^{へいそくせき}閉塞石の存在から、横穴式石室と認識されて



峯ヶ塚古墳

いたが、今回の調査で新たに^{せんどう}堅穴式石室が確認され、これまで想像もできなかった重層式になっていることは、従来の古墳観を一変させるショッキングなことであった。

また、古市古墳群中最も多く発掘された副葬品から、被葬者は倭の五王時代に関連する大王級、または、その周辺の皇太子級との見方があり、²⁴仁賢または²¹雄略陵説や¹⁹允恭天皇の皇太子木梨輕王子だとの説がある。

市では、この古墳を中心に歴史文化公園の整備を進めており、その前庭の一角に御影石のモニュメントも建立された。昭和49年国史跡に指定された。